

地域の絆を深めて、防災力につなげよう！

大規模災害時、被害を最小限に防ぐには「隣近所の助け合い」が大切です。

日本火災学会が平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で、家屋の倒壊や家具の転倒等により生き埋めになった人に対して、だれに救助されたか アンケート調査を行い、右の図のような結果となりました。約98%の人が自力もしくは近所の方に助けられたとなっています。

被災時は、救助隊や行政機関も交通網の寸断や火災の対処で救助が行き届かなくなります。そんな時に力を発揮するのが「地域ぐるみの防災活動」です。日ごろなかなか意識しないことですが、人と人とのつながりはもっとも重要な防災対策になります。

地域の防災力を上げるには、まずは地域の絆を深めることから始めましょう。

自主防災組織とは

災害時には、初期消火、避難誘導、被災者の救出・救護など自主的な防災活動が何よりも大切です。こうした初期の災害への対応に力を発揮するのが、地域の人々で作る自主防災組織です。

御坊市には、地区や町内会単位で自分たちを災害から守るため地域のコミュニティで結成された自主防災組織がたくさんあります。このような統率のとれた組織が地域にあると、もしものことがあった時の災害対応を地域で行うことが出来ます。自分の地域に自主防災組織が無い所はぜひ自主防災組織を結成し、災害に備えましょう。

自主防災組織の活動

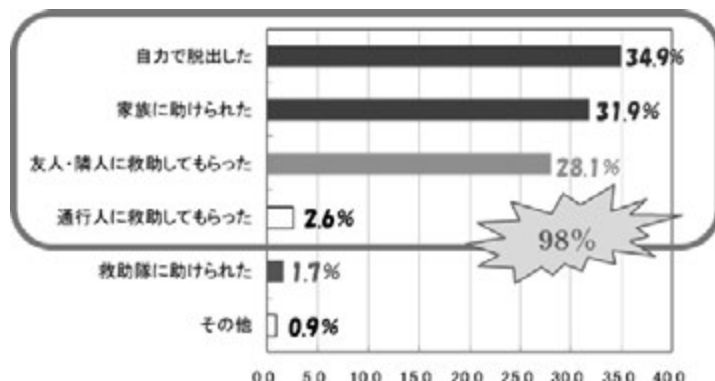
いざというとき、自主防災組織が有効な活動を行い。被害を最小限に食い止めるためには、地域住民が防災知識を習得し、災害に備えることが大切です。

そのためには常日頃からの地域ぐるみの普及活動が欠かせません。

【活動内容】

- 消火・避難・図上・炊出し等の訓練の実施
- 防災意識の啓発・高揚のための講習会の実施
- 地域内危険要因や危険個所の調査とその周知徹底

生き埋めや、閉じ込められた際の救助



日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

全国瞬時警報システム(Jアラート)の 全国一斉情報伝達訓練

地震・津波や武力攻撃などの発生時に備え、次のとおり情報伝達訓練を行います。この訓練は、全国瞬時警報システム(Jアラート※)を用いて、市内にある防災行政無線から訓練放送を流します。

日 時 2月20日(水) 午前11時頃

- 放送内容
- ①チャイム
 - ②これは、Jアラートテストです×3
 - ③こちらは、ぼうさい御坊市です
 - ④チャイム

※Jアラートとは、地震・津波や武力攻撃などの緊急情報を国から人工衛星などを通じて瞬時にお伝えるシステムです。

